

目 次

報告

関西支部活動の概要／成田貴一
好評!!「材料評価セミナー」／永井宏

随想

支部活動の思い出／盛利貞
「幻の千草鋼」を訪ねて／姫田昌孝

大学／研究所紹介

大阪大学溶接工学研究所—国内唯一の溶接に関する全国共同利用研究所／松田福久
産業技術短期大学(旧鉄鋼短期大学)30年のあゆみ／岩井彦哉

企業紹介

21世紀に向けた新しい製鐵所づくり／姫田昌孝
“新しい時代へもっと大きく!もっと自由に!” テクノハートカンパニー 住友金属鉄鋼技術研究所／大谷泰夫
鋼のメタモルフォーシス求めて ㈱神戸製鋼所鉄鋼技術研究所／斎藤忠

プロジェクト・レポート

スカイフロント関西国際空港探訪記／宮田佳織・五十嵐正晃・樋之口俊一
明石海峡大橋～The Bridge to the Future～／与田利花
西播磨テクノポリス・播磨科学公園都市／泉久司

技術最前線

水素吸蔵合金を用いる二次電池の開発動向／宮村弘・上原斎

談話室

Engineering Foundation／岩瀬正則
世の中の進化, 技術の進歩, パソコン通信／松永久
“私たちは今, こう感じています” —現在, またこれから鉄鋼会社で働く若手女性研究者による座談会—
／辻本実佳子・竹田貴代子・前田由起子・永田陽子

報 告

関西支部活動の概要

成田 貴一
(関西支部前支部長)

関西支部は昭和14年3月22日に発足して以来,すでに半世紀以上にわたり,関西の特徴を活かし,活発な支部活動を展開してきた。その間の足跡については別の機会に譲るが,近世における科学・技術の未曾有の進歩と,それに伴う社会情勢の大きな変化,資源・エネルギー・環境問題などを背景とし,我が国の産業構造も大きく変わりつつあり,また研究や技術開発,理工系教育のあり方などについても真剣に討議すべき時機に直面している。このような趨勢に対処し,協会支部活動の運営についても,その抜本的な見直しが必要となってきた。そこで支部長の諮問機関として適宜に小委員会を設け,対応策を検討することにし,平成元年に企画,学術運営及び財務広報小委員会が設けられた。そうして,これらの小委員会における検討結果をもとに,平成2年11月には下記の施策が採択され,平成3年度より実施され,現在に至っている。

従来,支部長は当協会と日本金属学会関西支部長とを兼任してきたが,両学協会の性格,会員の専門分野及び職種の相違,本部組織との整合性,さらに人材の登用と機会均等制などを考慮して,支部長の専任制を採用し,かつ任期を1年とすること

にした。

また今日の高度な科学文明と技術革新の時代に対応し,支部事業の中核である研究会活動の見直しを行ない,それまでの恒常的な7研究会制に替わり,研究会の設置とその活動内容に柔軟性をもたせ,平成元年度より材料物性工学談話会,鉄鋼プロセス研究会,材料化学研究会,材料開発研究会,関西分析研究会の5研究会を新規に設け,さらに支部会員の意見,要望などを勘案し,学術及び技術の修得を目的とし,平成3年度より,材料評価セミナーを毎年開催することにした。

支部財政面では,支部繰越金の効果的活用を前提とするが,基本的には繰越金に頼らない運営を図るため,平成2年度より,事務・会議の合理的運営による経費節減,セミナー参加費の徴収,また研究会もその運営内容によっては参加費の徴収を行ない,一方では維持会員及び正会員の増強に努めるなどの施策を実施し,現在に至っている。

さらに半世紀以上にわたる支部活動の貴重な資料,業績をとりまとめ,記録の伝承を図るとともに,協会支部活動の意義とその重要性を明確にし,これからの新しい世代に対応した支部活動の運営に資することを目的とし,平成4年11月に支部小史委員会(支部創設記念事業)が発足し,その活動を開始した。

平成4年度支部事業報告

平成4年3月27日,㈱神戸製鋼所・コベルコ会館において総会が開催され,支部長に筆者が就任して以来,評議員会が2回,理事会が5回開催され,支部事業の運営,本部依頼事項などについて検討,審議が行なわれ,支部活動が効果的に推進された。